

かわべ

議会だより



一般国道41号美濃加茂バイパス(20年4月暫暫定供用開始に向けて)

平成18年8月17日



◆ 18年第2回定例会	2 ~ 3
◆ 17年度水道事業会計決算を認定	3
◆ 一般質問 6人の議員が登壇	4 ~ 10
◆ 編集後記	10

6月定例会

(6月8日～16日まで)

本定例会では、17年度水道事業会計決算の認定をはじめ、条例の一部改正、補正予算などを審議し、いずれも原案のとおり可決しました。

追加案件として、下水道工事請負契約の締結1件について審議し、可決しました。

予算案件

▲17年度一般会計補正予算(専決第4号)

4千万円を増額し、総額を36億7934万5千円としました。

主な内容は

「まちづくりのために」と4千万円の寄付をいただき、年度内の事業化ができなかったため、まちづくり基金に積み立てたものです。

▲18年度一般会計補正予算(第1号)

1259万1千円を増額し、総額を32億2659万1千円としました。

主な内容は

中濃地域農業共済事務組合規約の一部改正に基づく負担金618万8千円の増額のほか、上川辺地内道路新設改良事業費に500万円、学童保育の長期休暇時対策として児童館運営委託経費73万2千円を計上しました。

▲老人保健特別会計補正予算(第1号)

1946万6千円を増額し、総額を10億2088万6千円としました。過年度精算により、一般会計への繰出金等を増額しました。

契約案件

▲駅東周辺面整備工事請負契約の締結

契約の方法
指名競争入札
契約金額
9450万円
請負業者
可児市今渡
株式会社土屋組

中濃営業所

条例案件

▲条例の一部改正

地方税法の一部改正に伴い改正したものです。

主な内容は

(個人住民税)

・これまで課税所得に応じて税率が異なっていたものを、19年度から一律10%に統一するものです。

内訳 町民税6%

県民税4%

・定率減税は、18年度をもって廃止されます。

・20年度から最高2万5千円の地震保険料控除を新たに創設するものです。

なお、18年末までに締結した現行の損害保険契約等に係る保険料等については、従前の損害保険料控除が適用されます。

(固定資産税)

昭和57年1月1日以前から存していた住宅について、平成27年12月末までの間に、現行の耐震基準に適合させるよう改修工事(1戸当たり工事費30万円以上のもの)を施した場合において、その旨を町に申告したものに限り、当該住宅に係る

固定資産税の税額を2分の1減額するものです。

(町たばこ税)

7月1日売り渡し分から、税率が10000本につき321円引き上げられます。

国と県・町合わせて、

旧3級品以外のたばこについては、1000本につき852円が引き上げられることとなります。

▲中部圏都市開発区域の指定に伴う固定資産税の一部改正

固定資産税の特例を適用する都市開発区域内の工業生産設備の新設または増設の期限を20年3月31日まで延長したものです。

▲国民健康保険条例の一部改正

地方税法の改正に伴い、介護納付金課税額に係る課税限度額が9万円(改正前8万円)に引き上げられました。

▲議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正

通勤途上災害の「通勤」の定義をより具体的に規定するほか、「監獄」を「刑事施設」に、「障害の等級」を「障害等級」に用語を改めるものです。

▲消防団員等公務災害補償条例の一部改正

補償基礎額などを改正するほか、「監獄」を「刑事施設」に用語を改めるものです。

▲非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部改正

勤続10年から20年の分団長、副分団長、部長および班長に係る退職報償金の支給額をそれぞれ2千円ずつ増額するものです。

決算認定案件

▲17年度水道事業会計決算の認定

17年度の水道事業会計が3月31日で終了し、地方公営企業法の規定により決算の報告を受け、全会一致で認定しました。

報告案件

▲17年度繰越明許費繰越計算書

17年度予算の一般会計で、土木費の町道新設改良事業2657万2千円が18年度に繰り越されたため、地方自治法施行令の規定により報告がありました。

▲土地開発公社の経営状況

地方自治法の規定により、17年度事業報告および決算ならびに18年度予算について、報告がありました。

繰越明許費

年度内に支出を終わらない見込みのあるものについて、予算に定めて、翌年度に繰り越して使用することができきる経費。

その他の案件

▲中濃地域農業共済事務組合規約の一部改正

組合の一般事務費に充てる財源について、国からは補助金として組合が受け入れていました。三位一体改革により、18年度から当組合加入市町

村への交付税の中に算入されることとなり、組合へ納入する負担金割合などについて改正するものです。

▲町道の路線認定について

比久見地内で、1路線を、町道として認定しました。

17年度水道事業会計 決算の概要

年度末、給水戸数
…3,261戸(0.77%増)

年間受水量(県より受け入れた水量)
…112万1,495^m (2.43%増)
*水量の増は、夏の猛暑による。

決算額(税抜き)

- ・営業収入 2億1,223万0千円
- ・営業支出 2億1,864万9千円

* 供給単価 1^m当たり…181.49円
給水原価 1^m当たり…222.05円

- ・建設改良事業収入 587万8千円
- ・建設改良事業支出 6,617万8千円

* 差引不足額は、内部留保資金などにより補填しました。



7月5日、議会は国道41号美濃加茂バイパス美濃川辺線ランプウエーの早期完成などを要望しました。
(衆議院第2議員会館 衆議院議員 金子一義事務所にて)

一 般 質 問



安田昌次 議員

総合計画における 行政改革の 位置付けは

【安田議員】

- ①第4次総合計画における行政改革アクションプログラムの位置付けは。
- ②少子化問題に関連して、若い世代の子育てに対する新しい支援策は考えているのか。
- ③東海環状線の開通と国道41号線バイパスの改良で、企業立地には利便性のある好条件が揃っていますが、例えば「かしおゴルフ場」で9ホール増成地として荒造成をした場所に企業誘致をしようか。
- ④美濃加茂市との合併を視野に入れた計画とするのか。
- ⑤公共下水道の今後の見

「選択と集中」を より徹底し課題や 要望に対応していく

【佐藤町長】

- ①第4次総合計画策定にあたっては、以前にも増して、行政改革を推進し、「選択と集中」をより徹底し、新しい行政課題や住民の要望に対応していくことが必要であり、結果として総合計画を、夢や希望のもてるものにする事ができると考えています。
- ②少子化に係る各種データが示す現状は極めて憂慮される事態であり、数々の問題が心配されます。このため、町の財政は大変厳しい状況ですが、国・企業等の動向あるいは近隣

通しはどうか。
⑥県平均より下位にある川辺町の学童の学力向上に向けた、教育委員会の指導計画方針は現状のままがいいか。

市町村の施策を見極め「子どもが健やかに育つ町、安心して子どもを産み育てられる町」の実現を目指して施策を検討していきます。

③企業誘致を進めることは第4次総合計画においても重要な施策であることは間違いなく、今後は近隣の立地状況や企業が発信する情報を収集するとともに、県との調整も行いつつ施策を検討していきたい。

「かしおゴルフ場」の増設地についても、地権者、地元の見解を伺いながら、有力な候補地として検討していきます。

④昨今の国・県の財政制度とともに、市町村合併に対する方針も非常に先行き不透明な情勢であり、近隣市町村の動向も楽観視することはできません。現実には何年先に合併するといった設定はできな



かしおゴルフ場荒造成地

- ⑤事業実施地の地域条件や住民の意見を尊重しながら、財政面や政策全体の整合性を図り、適切に事業内容や進捗計画を見直しつつ、着々と進めたいと考えています。
- ⑥学力については、教育委員会としても常によく考えているところですが、個々の教科、調査の方法などにより変化、相違あるため、一つの結果だけを論じて、学力が低下しているとは言えないところもあります。本町の教育プラン「あらたまプラン」で、めざす子どもたちの姿を「心身ともに健康で郷土を愛する人間性豊かな子ども

一 般 質 問

も」とし、川辺町の学校教育の方針では、基礎・基本の徹底と「生きる力」の醸成を重点項目に掲げ、各学校では指導の重点に学力向上を掲げて学ぶ力となる、「基礎・基本の徹底」と「わかる・楽しい授業づくり」を押し進めています。学力向上は、いつの時代にあっても教育の重要課題であり、第4次総合計画においても「確かな学力の育成」を学校教育の一つのテーマとして掲げ、きめ細やかな指導の充実、一人ひとりの学力が確実に向上する指導の推進、豊かな表現力やコミュニケーション能力を図る教育などの推進を目標に計画作りを進めます。

【安田議員】 廃屋、空き店舗対策と、 青色回転灯車の 活用は

【安田議員】
県内5圏域ごとに「安全・安心まちづくり地域

連携会議」が創設され、「県内の市町村に依頼して廃屋、空き店舗などの緊急実態調査が行われました。行政だけでなく町民一人ひとりが、管理が行き届かない廃屋などの情報を共有し、犯罪の温床にならないよう対策を講じなければならないと考えるがどうか。

犯罪防止、地域の防犯意識向上のために地域住民による青色回転灯車のパトロールの運用を要望してきたが、町に対して近々許可されると聞いています。各地区のボランティアによる防犯パトロール隊を含め、今後の対策はどのように考えているのか。

町民協働による 防犯のまちづくり に努める

【古川総務企画課長】

廃屋、空き店舗などの緊急実態調査の結果、町内に114の対象施設を確認しましたが、現在のところ子どもたちが出入

りしているような特に関題のある施設は確認できませんでした。廃屋、空き店舗などを適正な状態で維持管理するのは、所有者の努力義務であり、法的義務がないことから行政として取り組めることは限界があります。幸い本町においては、自主防犯パトロール団体などにより地域の実情にあった活動がされていて、こうした活動こそがこのような犯罪を抑止することとして、大変大きな成果があると考えています。

地域などとの連携強化を図り、さまざまな犯罪から町民が安心して暮らせるよう「町民協働による防犯のまちづくり」の推進に努めます。

青色回転灯車については、早ければ



川辺町青色回転灯車

7月には許可がおりパトロールできると考えています。地域住民による青色回転灯車によるパトロールの要望については、特に法人格を持たない任意の団体については認可期間も相当かかることから、まずは町からの申請としました。今後は、それぞれの防犯活動団体の活動などの状況や地域の事情などをよく考えて、町が申請した青色回転灯車の活用も含め、支援のあり方を考えます。

2度目となる合併 協議会設置が否決 されたが



日下部明伸 議員

（この質問については、論点ごとにまとめて掲載しました。）

【日下部議員】

本年3月24日、美濃加茂市議会では合併協議会を設置することを否決しました。議事録によると合併する市町村の組み合わせにも触れられていましたが、住民の声を重視するということが述べられていました。

町としても合併の研究が始まった13年より6年目となり、町長は一貫して「現在の行政サービスを維持するには合併しかない。合併は避けて通れない。」と主張されてきた。しかし、2度目となる美濃加茂市と加茂郡7カ町村との合併協議会の

設置が否決された現在において、一部の意見の加

茂郡合併論、あるいは北部5町村の合併論に惑わされ、いたずらに時が過ぎ去ることに對して胸の張り裂ける思いがするのは私だけでしょうか。加茂郡7カ町村の組み合わせにこだわることなく、合併を推進され勇氣ある最後の町長となられんことを祈り、町長の胸中を聞きたい。

【佐藤町長】

市町村合併協議については、私が町長として初登庁した13年5月21日、可児・加茂地域11市町村の議長・首長が集まり、市町村合併について熱き思いを語り合いました。町長就任の初日から市町村合併問題に取り組むことになり、今日まで合併問題が脳裏から離れることはありません。基本的な認識は変わらず、合併は避けて通ることのできないさしせまって重要な課題であり、また、あら

ゆる選択肢を否定せず検討します。

合併協議破綻を受け、町では徹底した行財政改革に取り組みました。国・県・町ともに、厳しい行財政環境ですが、生き残りをかけて町政をつかさどります。

また、本年は川辺町合併50周年の節目の年にも当たり、過去の50年を顕彰しつつ、今後の川辺町の行く末を考えます。

【日下部議員】

去る4月28日開かれた議会全員協議会の中で、過半数の議員の署名を添え加茂郡7カ町村との枠組みにこだわることなく、それぞれの町村対美濃加茂市との合併協議を進めるべしという意見書ともいふべき決意書を提出しました。

町長は、「選択肢の一つである。」と即座に答えられました。署名をいただいた過半数の議員には、それぞれの思いに温度差があると思います

が、仮にも過半数の議員が署名した決意書は議会の方向と考えるのが当然です。議会は、早急な合併の推進を推し進めよう。執行部は、時期を待った合併の推進、あるいは選択肢の一つということとは、取りも直さず先ずは合併しないということでもあるのではないかと

【佐藤町長】

決意書の賛同者の署名は7人であり、1人辞職されたので現在6人、6対5で過半数です。決意書は決意書として大変尊重して重大なものとして受け止めています。全員協議会では、今現在、行動を起こすよりも10月1日予定されている美濃加茂市の議会議員選挙を待つてからの方が良いというような結論になったものと思っています。毛頭議会と対決をするというような気持ちはありません。

議会の中で1市1町という意見、提言が出たこ

とも存じていますが、果たしてそれが川辺町全体の意見かどうか、これについては、まだ認めるわけにはまいません。ですから1市1町についても選択肢の一つであると答えました。

【日下部議員】

合併出来なかったことについて、果たしてまったく加茂郡の町村長にその責任はなかったのでしょうか。すべて美濃加茂市が悪かったから合併ができなかったのでしょうか。

町長は先の美濃加茂市の住民意向調査の結果が反対と出たことについて、コメントの中で「夢にも思わなかった」と言われましたが、裏を返せば、美濃加茂市民の心が見え、読めていなかったということではありませんか。

【佐藤町長】

町長としての責任について、私は二重の意味で自らに科したつもりです。一つは、合併協議会が

破綻した翌年の4月の町長選挙に臨んだことが一つの責任の取り方、そしてそこで信任されたと私は理解しています。

もう一つは、行財政改革に関する施策を全力投球で行い、自らの給与も10%カットすることで、皆さんの了承をいただいています。この厳しい時代に責任を全うするには、石にかじりついても職に止まり、そして今後の川辺町の行く末を見届ける必要があると思っています。

住民意向調査前の動きですが、「市が、財政の弱い町村を救ってやるんだ」というような雰囲気があるグループが醸し出し、このまま加茂郡町村と合併すれば大変なことになりますよという言い方でキャンペーンをされたということには、いまだに残念に思います。

美濃加茂市民の心が読めなかったと言われれば、そうかもしれません。しかし、50%を切る人しか投票しなかったところ

に一つ問題があつたのではないかと思つています。

【日下部議員】

16年3月25日、加茂郡の首長と議長会の正副会長による9人の会合が、本町で開催され、重苦しい空気の中でしたが、思い切つて申しあげました。「このままでは合併はうまくはいかない。本当に合併を推進する気持ちがあるならば段階的な合併の方法も視野に入れ考えられたらどうですか。」と、発言しました

が、ある町長さんの「日下部君そうゆうことは、現在の合併協議がだめになったときに考えれば良いことで、今は協議することではない。」その一言で私の意見は却下されました。

合併協議が破綻した今、段階的合併も協議すべきは当然ではありませんか。とても本気で合併する気があると同うことはできません。首長の責任は、重大であると感じるが。

一 般 質 問

【佐藤町長】

16年の会合において、美濃加茂市と加茂郡の合併をどうしようかと協議をしていた時に、日下部加茂郡議長会長（当時）が突然、段階論を唱えられて私も面食らった1人です。日下部議員の気持ちはずっと一貫しており、私は敬意を表していますが、やはり時と場合も考えていただきたかったというのが、本心です。

【日下部議員】

12年3月に出された第3次行財政改革における中期財政見直しによると、17年には基金のほとんどがなくなると予想し、思い切った行財政改革をしてきました。17年度末の基金残高は予想を超え、何とか17億円台をキープしてこれま

した。これも行財政改革の結果であると思いますが、17億円ぐらい貯金があれば何とかやっつけていけるかなあという気持ちで町長の心の中にあるのではないかと

ん。しかしながら、18年度末には借金と言える起債総額も企業債を含めると100億を超えるのではないかと、危惧しています。去年、町長は「2年の内に合併を推進したい。」と発言しています。2年といえれば来年で、議会の改選の年で、合併のためだけの選挙であれば、選挙をやれば7〜800万かかるので、無駄な経費であり、本当に町長は心得て見えるなど私個人としては感じていましたが、あと1年ほどとなつてきました。そういった時に、もし合併出来なかつたら、「私は辞職するぞ」というような、そのくらいの心構えで私は合併に押し進んでほしい。何とか合併して、先ほども申しあげたような勇氣ある川辺町最後の町長となつてほしいという気持ちです。ぜひとも本当の胸の内を聞きたい。

【佐藤町長】

「これだけの基金があ

るから町単独でやっつけているのでは」というような考えはありません。

今、国の三位一体改革そしてその税源移譲によって一体自由なお金がいくら町にきたのかというのと、何百万、100万とかそのレベルの話です。知事は、講演会で県の年間予算は7700億円、1兆2000億円ぐらゐの起債残高がある中で、税源移譲による自由度を持たせる県のお金というのは2年間でわずか3億2500万円というように話された。本町でも例外でなく、わずかな自由度しかありません。そういった中で、さらに交付税改革により本町の交付税が削減されたとなれば、徹底した行財政改革をさらに延長しつつ、第4次総合計画に持つて行かざるを得ません。市町村合併への局面が大きく開かれない以上、川辺町として生き残りをかけた改革が必要だと申し上げているのです。



佐伯陽子 議員

緊急的に空き教室を利用し3年生までの学童保育を

【佐伯議員】

「今まで児童クラブへ行っていたが、本年度は人数が多いということ

で、3年生からは続けて入れてもらえない。何とかしてほしい。」という声を聞きます。昨今のいろいろな事件が起きてるとき、働いている親は心配でたまらないと思います。緊急措置として、町内の各小学校と話し合いを深め、空き教室を借りて3年生までの学童保育をすぐにと考えるがどうか。



児童クラブの様子（4月27日撮影）

一 般 質 問

各学校とも
空き教室は無く、
19年度に新たな
施設を計画

【桜井住民課長】

各小学校の教室では、即実施可能な空き教室は無く、19年度から新たに40人規模の児童クラブ施設が開設できるよう、建設を計画しています。今後、希望者のニーズに 대응できるよう各関係機関と連携、調整を図り、よりよい方策を進めていきます。

中央公民館ホールの
拡声装置の改修を

【佐伯議員】

中央公民館ホールにおける講演会等で「聞きづらい。」という声が聞かれ、ホールの音響効果について考える時期に来ているのではないかと思います。拡声装置の改修と音響効果を出すためのパネル設置などにより、ホール内全体が平均して良く聞こ

えるようにならないものかと考えるがどうか。

操作技術の向上と
ホールボランティア
の養成を図り体
制を強化する

【長谷川教育課長】

中央公民館ホールは、昭和56年に多目的ホールとして誕生したため、音響については、その後建設された他町村の固定式ホールに比べ、演劇やコンサートなどに適さない部分も指摘されています。施設の構造上、聞く位置によっては聞きづらい所もあり外部の音響の持ち込みで賄っている場合もあります。今後、職員員の操作技術の向上を図り、利用者によりよい環境を提供します。職員の操作だけでなく、現在はホールボランティアの養成を図っています。今後により多くの利用に対応できるように体制を強化します。

図書室1階の梁の
クラックの原因は



中西 修 議員

【中西議員】

図書室増床部1階の梁にクラックが目立つが、設計者、施工者と協議され、どのような結論を出したのか。なぜ、この様な問題が生じたのか、業者の問題があつたのか、町の管理、対応能力に問題があつたのかどうか。第二保育所の工事の時にも指摘しました。事があつたときに確認たる対応を取っていれば今回のことは未然に防げたかもしれません。今後のことも鑑みて考えは。また、15年度から17年度における図書の購入状況と今後の購入予定はどうなっているのか。

構造上の問題ではないが、経過観察
を行い対応する

【長谷川教育課長】

図書室駐車場の天上部梁部分に見られるクラックについては、斜めひび割れは見られず梁部材長字軸に対し垂直方向へのひび割れが生じており、ヘアークラック程度である旨の回答を得ています。原因は、コンクリートの乾燥収縮によるものと判断され、構造耐久力及び耐久性に及ぼす影響はないと判断される旨の回答を得ており、構造上の問題ではないと考えています。経過観察を行い、問題が発生すれば改修、問題がなければ今後の鉄筋への酸化影響を考慮し、表面処理を行わせたいと考えています。

冊を目標に購入する計画としています。

【赤坂助役】

施設の引き渡しを受けていますが、クラックについては一定の期間、少なくとも瑕疵担保責任期間は注意深く見守っていきます。過去の建築事業に係る工事施工上の問題については、そのつど補修してきました。指摘の点については、一度内部的に総括し、業者選定の見直しを含め指名業者選定委員会などで検討します。

【中西議員】

本の購入状況については、15年度は723冊を79万9457円で、16年度は522冊を80万円で、両年度とも2回に分け、17年度は1170冊を199万9200円で3回に分け、各年度とも随意契約で佐藤書店から購入しています。今後の予定は、17年度を含む5年間で1万5千

なお、建築における監督、施工管理については、極めて高度な専門的、技術的な知識、能力が必要であることから外部に委託しています。内部において施行管理することは、現状極めて困難な状況ですが、できるだけ内部チェックが図られるよう、職員のスキルアップに努めていきます。

コンクリートの乾燥収縮によるクラックではあり

一 般 質 問

ません。構造上一番ひびの入りやすい所にみんな入っており、あれは構造的なひびの入り方であり、意見が一致しません。再度、能力のある方と相談され報告いただきたい。図書の購入は、一般競争入札でやっていただきたい。



石井幸太郎 議員

山川橋下流の環境整備を

【石井議員】

旧山川橋下流ダム湖、弁天神社付近については、水深が1メートル以上あり、魚や水中の生物がたくさん住み、四季折々に植物が目を楽しませてくれました。今では、上流からのゴミ、流木が漂着し重なり、ただ一面名もない雑草で覆われ、悪臭によって地元住民は

困っています。これもダム公害とも言えますが、これらの対策と環境整備はできないのか。

抜本的な対策が取れないか協議していく

【座馬基盤整備課長】

河川管理者の岐阜県およびダム管理者の中部電力(株)に対し撤去などの要望を行い、17年9月までには飯田側の河口付近の浚渫、福島側のゴミ、流木の撤去を行って頂い



飛騨川と飯田側の合流付近(6月9日撮影)

た。しかし、その後の豪雨などによりゴミ、流木等が漂着・堆積している事も認識して、継続的にゴミ等の撤去、浚渫の実施を要望している段階です。また、抜本的な対策がとれないか、それぞれの管理者と協議したいと考えています。

時代にあった農道改良はできないか

【石井議員】

最近では、農機具トレーラーも大型になり、

便利な機械化の時代になりましたが、農道は土地改良当時のままで、一年に小さな事故が多く起きています。通学路として利用し、町道認定されている農道もあります。交通安全面からも、改修、改良が必要な時期であり、安心、安全な農道改良はできないかどうか。

狭い生活道路・農道、交通安全上必要な箇所から

【座馬基盤整備課長】

本町の財政は非常に厳しい状況にあり、道路改良事業には多額の費用を必要とし、町施策の全体的調整の下に考えていかなければなりません。

狭い生活道路・農道および交通安全上必要な箇所から順次拡幅改良工事などを実施したいと考えています。なお、農道舗装工事などは、県の補助事業などの財政支援をいただきながら実施し、住民生活の利便性、農業生

産の基盤づくりを図っていきたいと考えています。

編集後記

18年度は早くも4カ月が過ぎ、行革も事業も順調に進んでいます。中津川市で起きた事件の教訓から町内の廃屋・空き店舗などを緊急調査した結果は特に問題はなく、また、公園内のちびっ子遊具も点検され「安全・安心のまちづくり」に監視の輪を更に広げるよう心がけたい。

加茂郡合併等研究会は、一つの区切りとして発展的に解消しました。

6月16日、議会は渡辺猛之県議会議員との懇談会を実施しました。

皆さん、是非議会の傍聴にお越しください。

(S・Y)